

第6学年 総合的な学習の時間学習指導案

「未来プロジェクト ～『附ッザニア』を開こう～」

学習指導者 T1 滝井 康隆 ・ T2 藤井 康裕

1 学年（68名）の実態

（1）方法の習得を目指す自己調整力に関する実態

〔課題を設定する力〕

質問紙調査によると、総合的な学習の時間に勉強を始める前に、これから何をどうやって勉強するかを考えていると回答した子供は51名であった。実際の授業中には、自分がすべきことをはっきりと認識できず、友達から言われたことをそのまま行ったり、友達の様子を観察し同じことをしようとしたりするなど、自分から課題を決めて取り組もうとすることが難しい様子が見られる。

（2）総合的な学習の時間に関する実態

これまで歴代の6年生が開催してきた「附ッザニア」で、自分たちがブースを用意して説明したり体験してもらったりする側になって下の学年の子供たちに仕事のことを伝えたいと思っている子供が多い。修学旅行でキッザニアに行って体験をしたり、仕事調べを通して複数の仕事について調べたりしてきている。総合的な学習の時間において、時間を有効に使えていたと感じている子供が多いが、設定された時間以内に活動を終わることが難しい様子が見られている。

本単元で習得させたい「課題を設定する方法」

ゴールと現状を意識し、前時を参考にしたり友達と話し合ったりしながら解決したいことを考える

2 本単元で目指す『多様な他者と共に、自ら学びを進める子供』の姿

本単元では、自分たちが調べてきた仕事について下級生や保護者などの相手に合わせて分かりやすく伝えるために、仕事内容を説明し体験してもらうブースを作り上げていく。まず、紹介したい仕事ごとにグループを作り、どのようなブースにしたいのかについて話し合い、理想のブース像をグループごとのゴールとして設定する。そして、ゴールを達成するために必要なことを考え話し合いながらカードに書き出し、イメージマップを作成して大まかな見通しを立てる。そして、書き出したことや前の時間に取り組んだことを振り返りながら、その日に自分が解決することを決め、課題解決に取り組んでいく。まずは、同じグループの友達と話し合い、前の時間に未解決だった課題を明らかにしたり、ゴールを達成するために必要なことを新たにイメージマップに付け加えたりしながら、その時間に自分が取り組む課題を設定する。例えば、「前の時間までに説明するときの原稿ができたから、私たちのゴール『楽しく説明が聞けるブース』に近づいたよ」「ゴールの『楽しく説明が聞けるブース』にもっと近づけるために、専門用語をあまり使わない原稿にしたいな。今日はこれを課題にしよう」「いいね。まずは来てもらわないといけないね。『みんなが来たいと思える掲示物』もゴールに加えよう。私は看板を作るね」「わかった。楽しい説明になっているか、原稿を直した後で聞いてね」などと話し合いながら課題を設定していくのである。そして、課題解決に向かって各教科等の時間に学んだことを使いながら、様々な方法で取り組んでいく。例えば、社会科での学びを生かして立場を広げて調べたり、国語科での学びを生かして順序を意識して書く内容を考えたりしながら、課題解決していく。その後、活動を振り返り、自分ができたことを明確にする。その際、友達と成果を話し合い、「看板ができたよ」「イラストがいいね。原稿はまだ、専門用語があるから言い換えを続けよう」などと互いの成果を称賛し合ったり、次の課題を明確にしたりしていく。このような学びを通して、仕事への理解を深めたり、知らなかった仕事について新しく知ったりしながら、仕事に向き合う人たちの思いに触れ、現在の学習と実社会とのつながりを意識し、自分の生き方を考えていこう。

3 単元構成の工夫

(1) 【魅力的な目標を子供と共有】①

本学年の子供たちは、1学期を通して、自分の興味のある様々な仕事について調べたり、修学旅行においてキッザニアを訪問し、様々な仕事を体験したりしてきている。これまでの「附ッザニア」に参加して楽しかったことを想起させ、今年も開催して多くの人に発表することができることを意識し、次の学年につなぐためにも、様々な仕事について紹介したり体験活動を用意したりしたいという思いを高める。そして、1学期を通して調べてきた仕事について伝えるために、キッザニアと同じようなブースを各自で計画運営するという目標を共有する。

(2) 【子供が自ら選択して、学びを進める場の設定】③～⑧、⑬～⑱

子供たちが自分たちのゴールを達成するために、課題を設定した後、学習支援アプリを活用して行動計画シートを作成することで、その時間の自分の活動に対して見通しをもてるようにする。行動計画シートを作成する際には、まず、課題解決の方法を友達と話し合い、様々な解決方法を考えカードに書き出す。そして、活動にかける時間を設定し、その時間に応じてカードの大きさを変える。行動計画シートには、あらかじめ行動計画シートを作成する時間とその時間の活動を振り返る時間を位置付けておくことで、全体的な見通しをもちながら計画できるようにする。また、見直し場面と振り返り場面でシートを提出させ、行動計画に基づいて行動できているかを確認させたり、計画通りにできたことや新たな課題に気付いていることを称賛する。



【行動計画シート】

(3) 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て (本時 14/24)

次	学習の流れ	手立て
二	①② 附ッザニアに向けて計画を立てよう どのような発表にするかを話し合い、グループを決めて役割分担したり日程を決めたりするなど全体の計画を立てる。その後、理想のブース像を話し合い、ゴールを設定する。そして、ゴールを達成するために必要なことを話し合いイメージマップを作成する。	【イメージマップ】②～⑧、⑬～⑱ 認知 ②時間目に、ゴールを設定させ、課題を設定する方法を教示する。そして、ゴールを達成するために必要なこと配置したイメージマップを作成させる。③～⑧時間目には、友達と話し合ってゴールを確認したり、前時の活動を想起したりしながら課題を選択するよう促す。
	③～⑧ 附ッザニアリハーサルに向けてグループごとに準備を進めよう 分かりやすい発表や楽しい体験などのゴールを実現するために必要なことを話し合いながら、イメージマップに書き出したことから課題を設定し、行動計画を立てる。行動計画に沿って課題解決に取り組み、説明のために必要な表現物を作成したり体験の準備をしたりする。	想起 ⑬～⑱時間目には、「今日の課題はどうしますか」などと問いかけ、テレビモニターに各グループのイメージマップを表示して、ゴールを意識させたり、個別に前時の振り返りを想起させたりする。
	⑨～⑱ 附ッザニアリハーサルを行い、改善点について話し合おう 中間リハーサルを行う。その後、改善点について話し合い、他のブースの改善点も参考にしながら、今後の課題を明確にする。	
三	⑬～⑱ 附小フェスタに向けてブースを改善しよう 改善案を確認し、ゴールを再設定する。ブースの改善に向けて行動計画シートを作って課題解決に取り組み、その日の活動を振り返り、次時の課題を確認する。リハーサルを行い、改善されたか確かめる。	
	⑲～⑳ 附小フェスタで附ッザニアを開こう 附小フェスタで各ブースごとに活動を行い、自分たちが調べた仕事について紹介したり、体験してもらったりする。	実感 学習支援アプリを使って作成させることで蓄積して参照しやすくしたり、相互閲覧したりできるようにする。また、コメント等で、適切な課題を選択できている子供を称賛する。
	㉔ 附ッザニアを振り返ろう 参加者アンケートを基に附ッザニアを振り返り、これまでの努力に気付いたり、自らの成長を実感したりする。	

4 本時の学習

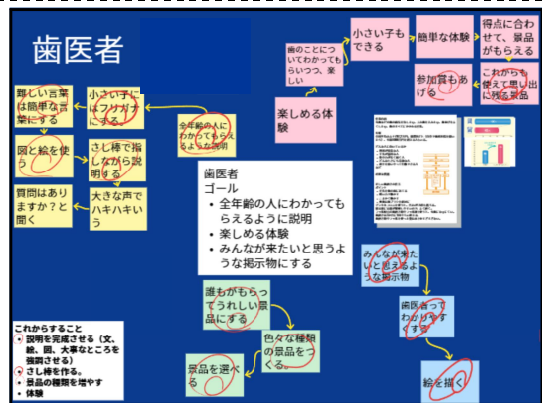
目 標	友達と話し合いながらグループの課題を達成するための行動計画を立て、それに基づいて課題解決に取り組む活動を通して、自分たちが調べてきた仕事について分かりやすく伝えるための表現物を作成したり、体験活動をよりよいものにしたることができる。
--------	--

学習活動と手立て		主な子供の意識		
見 通 し	1 学習課題を確認し、行動計画シートを作成する。 【イメージマップ】	<p>リハーサルで出された問題点を改善して、附小フェスタではグループの発表や体験を成功させたい。</p> <p>自分たちのグループの目標は、「分かりやすい説明」「楽しい体験」だったよ。「楽しい体験」にするために改善案が出ていたね。</p>		
		<p>附小フェスタに向けてブースを改善しよう</p>		
		<p>イメージマップの「楽しい体験にする」ために、改善案がいくつかあったよ。僕は、課題を「楽しめる体験に改善する」にしよう。</p> <p>課題を解決するために、体験の説明を分かりやすくする方法を考えるよ。5分で考えて、次の10分では友達と話し合いたいな。</p> <p>説明の言葉を分かりやすいものにしてしよう。それも計画に入れよう。</p>	<p>前の時間には、体験するときの手順が分かりやすい説明を考えたよ。今日は課題を「小さい子でも分かりやすい説明にする」にしよう。</p> <p>課題を解決するために、発表原稿を見直して、分かりにくい言葉を言い換えるよ。最初の20分で原稿を改善して次の10分で友達に聞いてもらおう。</p> <p>練習する時間も必要だね。計画に入れていこう。</p>	
行 動	2 行動計画シートに沿って自分たちの課題に取り組み、ブースを改善する。	<p>体験する順番が分からなかったという意見があったから、順番が分かるような説明にしよう。まず説明することは何かな…。</p> <p>順番を説明するようにしたよ。友達に聞いてもらおう。</p> <p>十分練習できたよ。補足説明の掲示物も作ろう。</p>	<p>一年生は、分からない言葉が多いと思うよ。掲示物を変えようかな、説明で付け加えたらよいかな。どちらの方がみんなに分かりやすいかな。</p> <p>原稿を指しながら補足説明をするよ。分かりやすくなったかな。</p> <p>仕事について詳しく調べて分かりやすくなったよ。発表練習をしよう。</p>	
	振 り 返 り	3 本時の学習を振り返る。	<p>今日の活動を振り返ろう。</p>	
			<p>楽しく体験してもらえそうだ。でも、考えるのに5分以上かかったよ。次は、考える時間を長めに取ろう。</p> <p>幼稚園の子に試してもらいたいな。そのために、次の時間は、実際に説明する練習をして、小さい子でも分かると思うか感想をもらおう。</p>	<p>分かりやすい説明になったよ。分からない言葉を一人で考えず、最初から友達と一緒に考えてもよかったな。</p> <p>イメージマップに「小さい子でも聞ける短い説明」を加えよう。次の時間は、本当に大切なところだけを短く説明する原稿を作ってみようかな。</p>

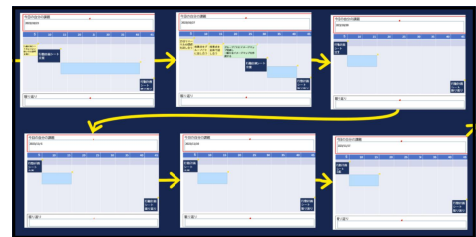
評 価	友達と話し合って立てた行動計画に沿って、様々な方法で課題解決に取り組むことでブースを改善し、行動計画と実際の活動を比較することで、活動の成果を捉えたり、次の課題を見付けたりしている。 【方法：発言・様相・記述】
--------	---

～見通し～ **学習活動1【イメージマップ】**

前時には、リハーサルをして友達や下級生から聞いた感想を基に「警察官」や「医者」「ゲーム会社」など全15のグループごとに改善案を話し合っている。本時では、グループで話し合った改善案を実現するために活動していくことを確認する。子供たちはイメージマップに「楽しめる体験」などのゴールを明記し、これまでの活動で達成してきた課題に印を付け、自分たちのブースがどれだけゴールに近付いたかを視覚的に表してきた。そして、イメージマップや前の時間の振り返りを基に課題を設定することを繰り返してきている。そこで、「今日の課題はどうしますか」などと問い、テレビモニターにリハーサルをして感じたことを話し合って更新したイメージマップを表示しておいたり、個別にこれまでの活動内容やゴールを達成するために必要なことを問いかけたりして課題を設定するよう促す。その際、同じグループの友達と相談するよう促したり、グループ内で手伝って欲しい人がいないかを確認したりする。T2個別に問いかけ、前時の活動を想起させる。



【リハーサル前のイメージマップ】



【日付順に並べた行動計画シート】

課題を設定できた人から行動計画シートを作成するよう促す。計画立案の際には、前時の行動計画シートを参照させたり、時間の過不足はないかを確認したりして、より有用なシートになるよう声掛けをする。子供たちは、同じグループの友達と話し合いながら、課題を解決するために必要な行動及び時間を決めていこう。T2提出箱の様子を見ながら、提出が遅れている子供のところへ行き、個別に声掛けをすることで一緒に行動計画シートを作成していく。

～行動～ **学習活動2**

行動計画シートを提出した子供から課題解決に取り組んでいく。行動場面で子供たちは、見通し場面で作成した行動計画シートに沿って活動していくため、様々な活動を個別に行っていく。それらの活動に必要な道具や材料を用意しておき、必要なときに必要なだけ使えるようにしておく。また、一人一人の行動計画シートを見ながら個別に声を掛け、計画通りに行動できているか考えさせたり、残り時間を全体に知らせたりするなど、活動に夢中になる子供たちが時間通りに行動できるよう支援していく。その際、計画と実際の行動にズレが生じている子供に対しては無理に時間通りに行動できるよう促すのではなく、現在取り組んでいる解決方法に集中させつつ、次回は長めに時間設定する必要があることに気付かせたい。T2T1と同様に個別の声掛けを行う。

～振り返り～ **学習活動3**

本時の活動を振り返り、できたことやできなかったことを記録するよう声掛けをする。子供たちは、行動計画シート上の一つ一つの活動に対して取り組めたか否かを判断して○や△などの印を付け、本時の課題や解決方法及び活動時間が適切であったかを振り返る。その後、本時全体の感想を行動計画シートの下部に記述する。これらの活動を行うことで子供たちはできたことや次への課題を記録していくだろう。見通し場面同様、振り返りを記録した行動計画シートを提出させ、本時の中で、あるいは授業終了後にコメントすることで時間を有効に使う計画が立てられていることやゴールに近づいていることを称賛する。T2振り返りにくい子供に活動を想起しやすいよう声掛けしていく。



【振り返りを記録した行動計画シート】